

平成31年 3月 1日(金)
地域共生社会の実現に向けた自治体等研修会
宮崎県JA・AZMホール大研修室

地域共生社会実現への挑戦

～ 障がいがある人もない人も誰もが
ともに暮らしやすい地域・社会を目指して～



一般社団法人 共生社会実現サポート機構
代表理事
特例認定NPO法人 おおいた成年後見権利擁護センター
Baton(バトン) 理事

山内 勇人

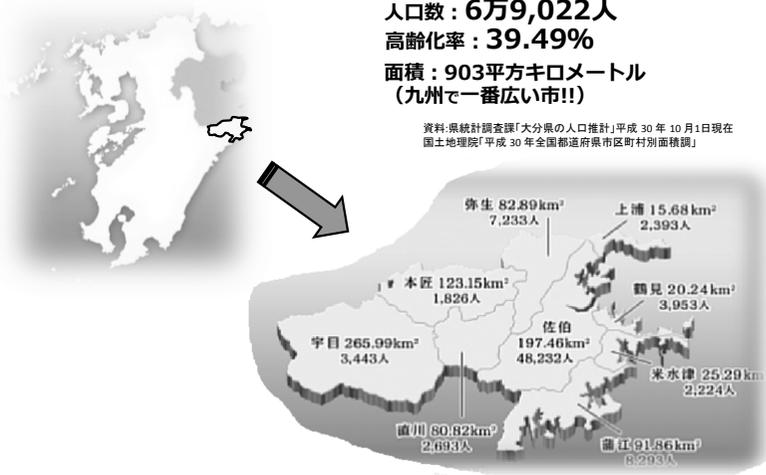
精神保健指定医・認知症サポート医・内科専門医

大分県 佐伯市

tontonton

人口数：6万9,022人
高齢化率：39.49%
面積：903平方キロメートル
(九州で一番広い市!!)

資料:県統計調査課「大分県の人口推計」平成30年10月1日現在
国土地理院「平成30年全国都道府県市区町村別面積調」



今日のお話

1. 第1期：仲間づくりから官民協働へ (2010年～)
2. 第2期：オレンジカフェさいき開設 (2015年～)
3. 第3期：とんとんとん開設 (2018年～)
4. 私たちが目指す地域共生社会



一般社団法人
共生社会実現サポート機構
とんとんとん

“ハートフル”な地域づくり



公民館での疾患啓発 ▶ 佐伯市とのコラボ(2012年～)

高齢者学級 ▶ 佐伯市教育委員会とのコラボ



ひとが“棲み”暮らす
のべ3,500人以上が参加/6年間 “地域”での疾患啓発
“地域を耕す”



中学校・高校での出前授業

▶ 佐伯市、教育委員会とのコラボ(2016年～)

佐伯長寿医療懇話会



第一回佐伯長寿医療懇話会

平成24年2月14日 佐伯市医師会館

【講演】19:10～20:30

「認知症対策の現状 ～行政・医師会の取り組みなど～」
杉谷診療所 院長 井上 雅公 先生

「認知症入門」
長門記念病院 副院長 三宮 邦裕 先生

「認知症のBPSD等精神症状について」
佐伯保養院 副院長 山内 勇人 先生

「認知症診断における画像診断の意義」
健康保険 南海病院 放射線科 部長 院摩 真久 先生

【閉会の辞】20:30～
佐伯保養院 院長 廣瀬 秋信 先生

- ・ 特にかかりつけ医を中心とした地域の高齢者に対する認知症をはじめとした諸問題への対応力向上を目指す
- ・ 医師を中心として企画・運営するが世話人に地域包括支援センター、認知症疾患医療センターを入れ緊密に連携
- ・ 歯科医師、薬剤師、看護職へも声かけ



第1回： 2012年2月14日
年に2-3回 開催。
認知症から発展し、高齢者に特徴的な整形疾患、皮膚疾患、尿閉、感染症などもテーマとして取り上げ、地元の医師に講師を依頼。
平均 約60名が参加。

佐伯市長寿支援ネット懇話会



- ・ 多職種連携の会⇒“顔の見える関係づくり”
- ・ 市地域包括支援センターを事務局中心として、官民の枠を超え多職種からなる世話人会で運営(保健所、認知症疾患医療センターも)
- ・ 高齢者のケア、社会的支援を担う職種を中心に多職種連携やスキルアップを目指す
- ・ 医療職メンバーはアドバイザー的役割を含め積極的に関わりを持っている(医師、歯科医、薬剤師、歯科衛生士、リハ職等)
- ・ 2012年に設立、年2-3回程度研修会



“ハートフル”な地域づくり

～官民協働～

- ▶ RUN伴 in 佐伯 (2016年～)
- ▶ 佐伯市SOSネットワーク (2016年～)
- ▶ 佐伯市高齢者にやさしい地域づくり協議会 認知症施策推進部会 (2016年～)



今日のお話

2. 第2期：オレンジカフェさいき開設
(2015年～)



オレンジ(認知症)カフェ



▶平成24年6月、厚生労働省は「今後の認知症施策の方向性について」の方針を示し、それに基づいて策定されたオレンジプラン(認知症施策推進5か年計画)中で、「認知症カフェ」の普及が謳われた

▶定義「認知症の人と家族、地域住民、専門職等の誰もが参加でき、集う場」
▶「認知症の人やその家族等に対する支援を推進する」有効な手段と位置づけられている

▶運営主体や地域により認知症カフェのあり方はさまざま

▶全般に、施策が期待した認知症の人や家族に対する効果だけにとどまらず、地域住民や専門職、ボランティア、地域や社会に対する効果も明らかになっている



そのような実績もあり、認知症カフェは平成27年1月に改正された新オレンジプラン(認知症施策推進総合戦略)にも盛り込まれることとなり、その普及がますます期待

オレンジカフェ さいき



毎月第1・3日曜



2015年6月7日オープン
2019年6月16日で90回目!!
これまで
のべ4,500名が参加

無料 予約不要



地元高校生もスタッフに

- ・認知症に関する全ての情報発信、相談、交流の場
- ・楽しい、笑顔づくり
- ・認知症に限定せず、ごちゃ混ぜで
- ・みんな「さん」付け、ひとりの人として

まちなかカフェ「オレンジカフェさいき」で生まれたこと

- ① 本人と介護者・家族、スタッフが共に楽しめる場
- ② 相談から受診・支援につながる場
- ③ 疲弊した介護者が家族会につながる場
- ④ 入院や入所中の当事者が家族や職員と外出できる場
- ⑤ さまざまな障がいを超えて誰もが参加できる場
- ⑥ 所属・職種を超え支援者同士のつながり・拡がり・学びの場
- ⑦ ボランティア参加、地域での関係性がひろがる場
- ⑧ 地域における情報発信・繋がり、地域づくりの拠点
- ⑨ ひとりの(尊厳ある)人として過ごせる場



tontonton
一般社団法人 共生社会実現サポート機構

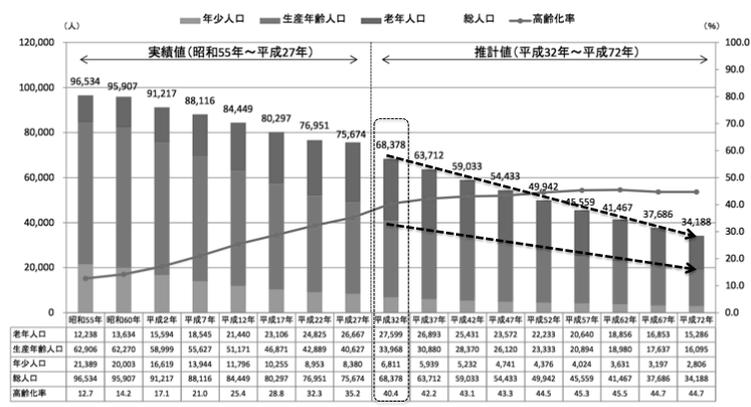
今日のお話

3. 第3期：とんとんとん開設
(2017年～)



一般社団法人
共生社会実現サポート機構
とんとんとん

佐伯市人口(3区分)及び高齢化率の推移



(出典)国勢調査(昭和55年～平成22年)、佐伯市行政区別人口動態調査表(平成27年3月31日現在)、佐伯市独自推計*(平成32年～平成72年) 3
 *佐伯市独自推計は、国長期ビジョンにおける推計方法に準拠。
<http://www.city.saiki.oita.jp/city/img/matihitoshigoto/mhs-1/simulation.pdf>

認知症・障がい者支援のあり方とは?

人口減少(生産年齢人口の減少)
高齢化率の増加(認知症有病率の増加)

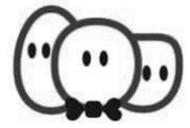
1. 各種障がい別に分かれた支援の見直し
2. 支援する側・される側に分かれた支援の見直し
3. 多職種連携(専門職)での支援の限界
4. 地域資源を活用し地域づくりにつながる支援



一般社団法人
とんとんとん
 一般社団法人共生社会実現サポート機構

3つの車

- ▶ 育児・子育て支援 (ベビーカー)
- ▶ 認知症含む高齢者支援 (シニアカー)
- ▶ 精神障がい含む障がい者支援 (車イス)



www.tontonton.or.jp

縦割りでなく、
 地域の社会資源を**発掘、つなぎ、育成!**
 支援する側・される側に分けるのではなく
 当事者も含め**“ごちゃまぜ”**で!
 子供から高齢者まで**誰もが**、障がいの有無に関わらず、
互いに支え・支えられる共生社会のモデル作り!

ホームページを
 ご覧ください♡

市長応援メッセージ

子ども、高齢者、障がいのある人、認知症の人、その介護をする人、育児で悩んでいる人たち…。そんな当事者が集える場が仲町商店街にできるそうです。そこに医療や福祉の専門職の人たちがいっしょに集まり、地域の人も加わって、わいわいがやがや、佐伯の町ににぎわいを取り戻す活動をする、その心意気にエールを送りたいと思います。専門家も当事者も地域の人たちも毎日を精一杯生きている仲間です。お互いを認め合い、励ましあい、助け合って自らの生活を豊かにしていこうとするこのムーブメントは、佐伯市の目標である「だれもが健康で安心して暮らせるまちづくり」を市民の立場から推進する革新的な取り組みといえます。とんとんとんの活動によって、ささやかでも役割をもって暮らしていく人たちが増え、ひとりぼっちで閉じこもる人のない温かい地域づくりが進むことを期待して、佐伯市をあげてその活動を応援したいと思っています。



田中利明

理事長挨拶 理事長 山内 勇人

副理事長 藤崎 郁

理事 前田 修二

理事 濱野 清子

理事 利光 史規

医療・保健・介護の専門職だけでなく、地域の方々、思いを持つ当事者や認知症の人たちが“ごちゃまぜ”で…退職しても、障がいがあっても、認知症になっても役割があり、子どもから高齢者まで、誰もが尊いひとりの人として必要とされ、互いに支え支えられる「共生社会」のモデルをここから発信したい!

2018年度の活動実績(2018年6月3日より)



『とんとんとん広場』

平成30年6月3日(日)のプレオープンから平成31年3月31日までの間、計86日開店し、のべ1685名の参加が得られ、沢山の笑顔に溢れた

『とんとんとん食堂』

平成30年6月14日に「子ども食堂」の届け出平成30年7月1日より平成31年3月17日の間計18回開催し、のべ721名の参加

ココロとからだに優しいカレーコンテスト

2019.8月4日(日) 11:30-13:00

場所：とんとんとん食堂 佐伯市仲町商店街

内容：一次審査を勝ち抜いた3チームのオリジナルカレーの中から皆さんの投票で『一等賞』を選びます

参加費：お一人さま 100円(高校生以下無料) 予約不要、先着約150名(なくなり次第終了)

～とんとんとん食堂～
子どもから高齢者まで“ごちやませ”で、わいわいがやがや…みんなで食べると美味しいよ！ 第1・3日曜日開催

カレーコンテスト参加チーム募集

募集要項：応募の中から書類選考にて3チーム選出 優勝チームには賞金15,000円と副賞、参加賞あり

応募資格：1チーム3名以上で構成、年齢不問、地域産品の食材で安心安全な美味しいカレーを当日2時間以内に和食調理場で調理(食料費支給あり)

応募方法：ココロ食堂のフェイスブックページにてチーム名とメンバーの名前、住所を記入し、オリジナルカレーをココロとからだに優しいカレーをテーマに、オリジナルカレーのレシピを添えて応募してください。

応募期限：令和元年7/20(土)18時(7/24まで)に審査結果を通知
お問い合わせ：とんとんとん食堂(佐伯市仲町商店街) 電話0975-8845 大分県佐伯市仲町2番29号

主催：一般社団法人 共生社会実現サポート機構(とんとんとん) 0975-0845 大分県佐伯市仲町2番29号

『ココロとからだに優しいカレーコンテスト』

日時：令和元年8月4日(日) 11:30~13:00

場所：とんとんとん食堂 佐伯市仲町商店街
内容：一次審査を勝ち抜いた3チームのオリジナルカレーの中から皆さんの投票で『一等賞』を選びます

参加費：お一人さま 100円(高校生以下無料) 予約不要、先着約150名(なくなり次第終了)

～とんとんとん食堂～
子どもから高齢者まで“ごちやませ”で、わいわいがやがや…みんなで食べると美味しいよ！ 第1・3日曜日開催

カレーコンテスト参加チーム募集
【募集要項】 応募の中から書類選考にて3チーム選出、優勝チームには賞金15,000円と副賞、参加賞あり
【応募資格】 1チーム3名以上で構成、年齢問わず、

一緒に過ごしませんか？

とんとんとん広場	毎火・日曜	10:00-15:00
とんとんとん食堂	第1・3日曜	11:30-13:30
オレンジカフェさいき	同上	10:00-12:00

今日のお話

4. 私たちが目指す地域共生社会

一般社団法人 共生社会実現サポート機構 とんとんとん

法律・条例



障害者差別解消法

全ての国民が、障害の有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現に向け、障害を理由とする差別の解消を推進することを目的として、平成25年6月に制定されました。

障がいのある人もない人も心豊かに暮らせる大分県づくり条例

平成28年4月1日施行



合理的配慮



障害のある人に「合理的配慮」を行うことなどを通じて、

「共生社会」の実現を目指します!!

合理的配慮って??

合理的配慮



合理的配慮って??

自分の心や身体の状態、価値感以外のものを認める事、受け入れること

老いや病気になった時の自分や家族を受け入れてもらえることに繋がる



知識として学ぶことに加え“ひと”として接する機会が必要

診察を出て活動を通じた気づき



- ▶“同じ場所”で“共に”時間を過ごすことでしか、わからないことがある
- ▶“障がい”とは“生きづらさ”のこと (それは私のなかにもある)
- ▶“障がい”はその人の“個性” (それを認めることから“共生”が始まる)
- ▶“多職種”連携ではなく、“異業種”連携の必要性
- ▶専門職の“強み”を生かした地域づくり

私たちが考える 共生社会

子どもから高齢者まで、
障がいの種別や有無に関わらず、
誰もがひとりの人として尊重される社会、

支援する側・される側に分かれるのではなく、
互いに支え支えられる社会・・・

ささやかでも役割を持って暮らしていく人たちが増え、
ひとりぼっちで閉じこもる人のない温かい社会



tontonton
一般社団法人 共生社会実現サポート機構

3 総合 (第3種郵便物認可) 大

全ての人が暮らしやすい
共生社会の実現を目指す医師

山内 勇人さん(51)

ひと

障害者の暮らしやすい社会はみんなにいいことも通じやすい。理事長を務める共生社会実現サポート機構「とんとん」(佐伯市)は医療や介護施設、障害がある当事者が「うちもまぜ」で、誰かが必要とせず、互いが支え合う社会の実現に取り組んでいる。発足のきっかけとなったオレシカフエで、役割を与えられた認知症の高齢者が生き生きとしている様子に衝撃を受けた。「診察室

での診療には限界がある。認知症や障害を隠してたくましく生活できる社会をつくらなきゃ」考えた。愛媛県十津市(現西国中央市)出身で、愛媛大学医学部を卒業。同大学の内科医として勤務後、2010年に佐伯市の精神科病院に移り、精神障害や認知症の診療に力を注いできた。医師を志した原点は後4カ月の時に負った顔のやけどで、リウマチを患う母の存在。「病気を寄り添ってきた自分だからこそできる治療があるはず」と力を込める。

現任はわかほけクリニック(大分市)の副院長。クリニックでの診療のほか週2回は佐伯、津久見両市での往診にも対応している。県内各地の公民館で開く出前講座は通算600回を超えた。

趣味は大学時代から続けるカヌー。大野川でカヌーをやるのがひそかな野望。大分市内で妻、中学生の次女と暮らす。長男と長女は大学生。(安里菜冬)

高齢者、障害者と支え合い

とんとんとんHP

www.tontonton.or.jp

研修会情報や
笑顔になる情報満載!!
見てね♡



愛gao 笑gao 恵gao∞
2017年12月26日

愛顔 笑顔 恵顔...“えがお”の向こう側
真摯に向き“愛”、支え“愛”、育み“愛”
“愛”があれば可能性∞

山内が関わる“えがお”づくりの
いろんな情報をお届けしたいと思います...
どうかヨロシクお願い致します

Facebook
愛gao 笑gao 恵gao∞
(egao egao egao)
ご覧いただければ幸いです

愛gao 笑gao 恵gao∞
健康・ウェルネスサイト・「いいね!」434件

検索 : **愛gao 笑gao 恵gao**